

百年後への贈り物

峯嶋利之（高12）



母校の創立から百年、私の卒業からも六十余年が経つ。歴史と伝統の重みを感じる。

恩師の当時の年齢をはるかに超える今、懐かしい授業風景がしきりによみがえる。越次政一先生（現代文）は円熟期のクラス担任であった。「国語（明治書院）」教科書の編纂委員に名を連ねるほどの教師であったが、「エッポンさん」と愛称されていた。酔うほどに談論風発、正月には毎年お宅にまで押しかけごちそうになったツケは到底返しきれていない。

浅井祐俊先生（古文）は背筋が伸びて古武士然としていた。授業は本居宣長「玉かつま」からはじまったが、むしろ今こそ聴いてみたい授業である。当時まだ珍しい自家用車通勤をされており正門前の急な坂道でしばしば乗せてもらった。車内の話は天下の日比谷高校生の息子の話が多かった。当人とは大学合格後同級生として対面する奇遇となったが、当時はまだ知る由もなかった。

岡田正太郎先生は東大出の油の乗り切った俊秀で、講義姿勢で生徒に対して妥協がなかったので怖いくらいであった。

今、これらの授業を再現できたらぜひ観てみたい。次の百年への贈り物として「一番聴きたい恩師の授業風景」を動画デジタルアーカイブとして残すのも一案かと思う。（了）

プロフィール：元牧陵会会長（平成18年～22年）、昭和35年横浜緑が丘高校卒、昭和39年東大法学部卒、大蔵省関東財務局長、NTT常務取締役、つくば銀行頭取を歴任、牧陵会会長時代に牧陵会80周年事業、「牧陵会ホームページ」の立上げを実施。

